

樂を打樹てるべき使命を擔つてをるやうに思はれます。

音樂は又生活と共に變遷して參ります。これまでの日本音樂はこの點に於て現在及び將來の日本音樂としては不當な點が多々あります。今日の如く音樂の用途が集團的となり、野外的となり、今や全世界の上に高揚する我が民族の姿を示す場合には藝術的にも社會的にも面目を一新した皇國の新國民音樂の樹立が最も必要であると思ふのであります。

かくの如き國民音樂創造の素地を作る大使命が即ちこの度の國民學校藝能科音樂にあることは實に明白であると思

ふのであります。

最後に「學校行事及團體的行動トノ聯關ニ留意スルコト」であります。これは是迄でも行はれてゐた處であるが、國民學校に於ては特に此の點を強調してゐるのであります。學校に於て行はれる行事にはなるべく音樂を活用し、又團體行進、團體作業、學校體操、團體勤務等あらゆる機會を利用して音樂を用ひ、音樂教育の効果を百パーセントに活用することが此際最も必要と信する次第であります。

幼稚園遊戯

(二)

東京女子高等師範學校教授

戸 倉 ハ ル

今回ここに御教へいただきました「ねんどのあそび」は「ばつたみ

つけた」の二つは、最近完成された全くの新作詞、新作曲、新振附でございます。歌ひ方にも注意致しませんと折角の氣分

が表はれませんので、戸倉先生の好き伴奏者として、本會の遊戯講習會の折には必ずおいで下され、皆様に唱歌を御教へ下さつてゐた、東京高等師範學校附屬國民學校の小林つや江先生に御願ひ申上げて、歌ひ方をお書き頂きました。(編輯係)

「ねんどのあそび」でお目もじ

皆様お達者でいらつしやいますか。今年はお目にかゝる機會を失つて誠に残念でございます。

いつも七月の講習は、暑さの中で、したゝる汗をしぼりながらの職域奉公が、何と楽しかつた事でせう。せまからぬ體育館を埋めつくした皆様の、あの美しいお聲、和やか

なあのおえまひ、そして子供さながらの、あの軽快な動き、この中にまげこんで、身も心も一體の私は、限らない感激で四日間を夢の間に過すのでした。今年もうれしい想像をめぐらしながら張り切つて居りました。ところが、突然中止になつて本當にがっかりしてしまひました。せめて教材の一、二を通してお目にかかり皆様御健康を御祈りいたします。

ねんどのあそび

倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲
ピクタ

できました できました
ねんどのたんくが できました
おもたいくるまに きかんじゆう
かたかたかたかた そらはしる
できました できました
ねんごのでんしやが できました
ながいぼーるに ちさいはた
ちんちんちんちん そらでます

〔唱ひ方〕

できました できました
ねんごのうさが できました
まるいからだに ながいみみ
びよんびよんびよん そらはねる
できました できました
ねんごのおにんぎよ できました
かわいゝあんよに くつはいて
おしようかうたつて そらあるく

全體ミして明るく、晴ればれき、
二拍子のアクセントに注意して、
前奏八小節は楽しい遊びに體全體動かしてゐるかの様に
同はれる。
全體にあらはれるスタッカートの弾き方に特に注意をして
取扱ふ。

符點四分音符を一分間に九十二の速度で、

歌詞 第一節

デキマシタ デキマシタ
ネンドノタンクガデキマシタ
ほんまうに樂しさうに明るく歌はせる

動作

前奏

四呼間——小走で後へゆき、蹲んで両手で粘土を持つ。

四呼間——小走で圓の中心へ粘土を置く。

八呼間——以上の動作を更に一回繰り返す。

(一)

できました できました——全員圓心にむかひ蹲んで、

シャベルで掘る動作を八回行ふ。

ねんどのたんくができました——二呼間に右手を横にま

わし高くあげ、體前で左手を打つ 以上の動作を左・右

交互に四回行ふ。

おもたいくるまにきかんじゆう——兩臂のひじを屈げて

脇にぎり、上から下に廻してたんくの様子を二回行

ふ。

かたかたかたかた——足踏を強く四回しながら立上り、

右を向く。

そらはしる——兩臂を「重たい車に」さ同じく一回まわし

ながら小走に五歩前進する。

(二)

できました できました ねんどのでんしやができました

——(二)の「できました、できました、ねんぎのたんく

オモタイクルマニキカンジュウ

重さうに、リズムカカルに、

カタカタカカカタ ソラハシル

擬聲音に注意して取扱ふ

歌詞 第二節

第一節と同じ様な心持で歌はせる。

第二節はデンシヤがチンチンと動く面白さを味はせながら歌はせる。共に擬聲音の取扱には注意する。

歌詞 第三節、及び歌詞 第四節

第二段第二小節目の「ウサギガ」「オニギョ」の旋律は第一節及び第二節と異つてゐるから注意して歌はせる。即ち「ド・ラ・ド・ラ」が「ドレド・ラ」で「ラ」が「レ」に上行してゐる。

第三節はウサギ

第四節はオ人形

共に幼児の生活に親みの多い題材であるからよろこんで歌ふことが出来ると思ふ。

擬聲音の取扱ひ方はその歌曲の中の生命をも考へられるのであるからよく氣分を出して歌はせることが肝要である。

〔遊戯〕

準備 五人乃至八人で一組の圓を作る。

ネンドアソビ

明ルク・晴々ト ♩. = 92

倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲

Musical score for the first system, including vocal line and piano accompaniment.

Musical score for the second system, including vocal line and piano accompaniment.

1.	デ	キ	マ	シ	タ	-	-	デ	キ	マ	シ	タ	-
2.	デ	キ	マ	シ	タ	-	-	デ	キ	マ	シ	タ	-
3.	デ	キ	マ	シ	タ	-	-	デ	キ	マ	シ	タ	-
4.	デ	キ	マ	シ	タ	-	-	デ	キ	マ	シ	タ	-

Musical score for the third system, including vocal line and piano accompaniment.

ネ　　ン　ド　ノ　　タ　ン　ク　ガ　デ　キ　マ　シ　タ　—
 　　ン　ド　ノ　　ウ　サ　ギ　ガ　デ　キ　マ　シ　タ　—
 ネ　　ン　ド　ノ　　デ　ン　シ　ガ　デ　キ　マ　シ　タ　—
 ネ　　ン　ド　ノ　　ネ　ニ　ン　ギ　ョ　デ　キ　マ　シ　タ　—

オ　モ　タ　イ　ク　ル　マ　ニ　キ　カ　ン　シ　ウ　—　—
 マ　—　ル　イ　カ　カ　ラ　ダ　ニ　ナ　ガ　イ　ミ　ミ　—　—
 ナ　—　ガ　イ　イ　ボ　—　ル　ニ　チ　サ　イ　ハ　タ　—　—
 カ　ハ　イ　イ　ア　ン　ヨ　ニ　ク　ツ　ハ　イ　テ　—　—

カ　タ　カ　タ　カ　タ　カ　タ　ソ　ラ　ハ　シ　ル　—
 ビ　ン　ビ　ン　ビ　ン　ビ　ン　ソ　ラ　ハ　ネ　—
 チ　ン　チ　ン　チ　ン　チ　ン　ソ　ラ　デ　マ　ス　—
 オ　シ　ウ　カ　ウ　タ　ッ　テ　ソ　ラ　ア　マ　ル　ク　—

〔備考〕附點四分ノ二拍子。即チ附點四分音符一個ヲ一拍トシ一小節ヲ二拍トスルモノ

ができました」三同じ動作をする。

ながいぼーるにちさいはた——立上り軽く足踏をしながら、右をむき前の者の肩に手をかける。

ちんちんちんちん——兩ひじを屈げ、脇にこり、體側で

二回まわす三同時に膝を二回屈げて伸す。

そらてます——兩臂を脇にこつたまゝ小走に五歩前進する。

間奏

曲のみのところは、子供の好むものを任意に表現させる。小鳥さすれば

十六呼間——「できましたできました。ねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

八呼間——兩臂を側に舉げ足踏する。

四呼間——右をむき、臂を斜後に伸し、翼を動かしながら前進する。

四呼間——更に翼を動かしながら小走で前進する。

(三)

できましたできました。ねんどのうさぎができました

——(一)の「できましたできましたねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

まるいからだに——兩臂を胸前に交叉して背を丸くし丸

い身體を表現する。

ながいみみ——兩臂で耳を作りながら立上る。

びよんびよんびよんびよん——耳を作つたまゝ、兩足で

四回跳びながら、其の場を右の方から一まわりする。

そらはねる——右に向き、圓周上を兩足で三回跳びながら進む。

(四)

できましたできました。ねんどのおにんぎよてきました

——(二)の「できましたできました。ねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

かわいゝあんに——立上りながら臂を腰にこる。

くつはいて——「くつ」で左足を前に出し踵を床につけ

「はい」で左足を右足に揃へる。「て」は右足で同じ動作をする。

おしうかうたつて——右向して右手を口許にこり左上

を眺め、左手を後にびん三伸して、踵から著床して四歩前進する。

そらあるく——その姿勢のまゝ更に五歩小走で前進する。

後奏

十六呼間——前奏に全く同じ動作を行ふ。

ばつたみつけた

倉橋惣三 作詞
服部正 作曲
ビクスター

ばつたみつけた くさのなか
しづかにだまつて そをつみねらつて

あ あ さんだ
ばつた さんでいつちやつた

〔唱ひ方〕

バツタミツケタ

ばつたをみつけた喜びを感激をもつて

「バツ」ミ「タ」ミの間の一拍の休符ははつと思つた心持を出すので正しく歌はせる。

「ミツケタ」の「タ」の次の八分休符は正しく休む。はぎれよく歌ひ終り、次に歌はれる言葉を呼び起す心持で。

クサノナカ

八分音符並列の「クサノナ」はなだらかに「カ」は二分音符を十分に保つて。

シヅカニ

しづかに落ちついて歌はせる。

ダマツテ

「ダ」は八分音符でマルカートに、

「マツ」は切分音であるから「マ」を強く、「テ」で落ちつかせる。

ソート

ネラツテ

共に「ダマツテ」の「リズム」を受けつぎ發展させてゐるので歌の心持をよく味はひながら歌はせる。

アア トンダ

「アア」ミがつかりしてしまつた心持で

「トンダ」の「ト」の附點八分音符を十分にのばして、はづませて。

バツトトンデ イツチャツタ

バツタのさんでいつたリズムをそのまま用ひてあるの
で面白く歌ふこゝが出来らうであらう。

バツタをみつけた最初の感激からにがしてしまつた幼
兒の心持を卒直に面白く表現してゐる。可愛らしい歌
曲である。

〔遊戯〕

準備 二人組となり 自由の隊形に配置する。

動作

一

前奏八呼間——靜かに聴く。

バッタミツケタ

倉橋惣三 作詞
服部 正 作曲

First system of the musical score. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in a 2/4 time signature with a key signature of one flat (B-flat). It begins with a dynamic marking of *f* and ends with *p*. The lyrics are: バ ッ タ ミ ツ ケ タ ク サ ノ ナ カ シ ヅ

Second system of the musical score. The vocal line continues with the lyrics: カ ニ ダ マ ー ツ テ ソ ー ッ ト ネ ラ. The piano accompaniment features a steady bass line and chords in the right hand. Dynamic markings *f* and *p* are present.

Third system of the musical score. The vocal line concludes with the lyrics: ッ テ ア 、 ト ン グ バ ッ ト ト ズ イ ヅ ヅ ヅ タ. The piano accompaniment includes a final chord in the right hand. Dynamic markings *f* and *p* are present.

ばつた——兩臂を口許にきつて、膝を曲げ二人互に呼び合ふ様子をす。

みつけた——體前で拍手を一回して其の手を下におろす。

くさのなか——「ばつたみつけた」に同じ動作をす。

しづかにだまつて——兩臂を體前から上に舉げ横にまわす動作を三回行ひながら忍び足で左足から三步前に出る。「あつて」は右足を前に踏出したまゝ、上體を前に傾け耳を澄す様子をす。

そまつとねらつて——左足に體重をかけ、體を後に倒し、兩臂を前から上に舉げる。「て」の時、兩臂を床についで、かがんで捕える様子をす。

ああ——立上りながら、二人は顔を見合せて體前で拍手を二回する。

とんだ——更に拍手を三回續ける。

ばつととんで——兩臂を後下へ伸し翅を作り、兩脚で二回跳びながら前へ進む。

いつちやつた——翅を作つたまゝで、右脚を後に舉げて左脚で三回跳びながら、更に前に進む。

(二)

レコードの曲のみのまごころは ばつたを巧く捕へ得た歡びの様子を表はす。即ち

八呼間(ばつたみつけた草の中)——兩臂を開いて、上體をやゝ前に傾けながら左足から八歩前進して、自由の方向にばつたを尋ねる様子をす。

十六呼間(靜かに黙つてそつみねらつて)「しづ」で左足を前に踏出し「かに」で右足の膝をまげ股を前に舉げ、左臂を前に右臂を後に伸す。此の動作を左右交互に七回行ひ、ばつたの居るまごころへそつみ忍び寄る様子をす。「あつて」で右足前に踏出し、それに體重をかけ「て」で拍手一つして掌中にばつたを捕えた様子をす。

四呼間(あゝ 跳んだ)——(一)の「あゝ跳んだ」に同じく體前で拍手を五回行ふ。

八呼間(ばつと跳んでいつちやつた)——更に拍手を續けながら。其の場を左に廻り、喜びの様子を表はす。